—河北町東福田で出土—

板碑群調査報告

宮城県桃生郡河北地区教育委員会
昭和五十七年五月

再版の序

桃生郡河北地区教育委員会
教育長　千葉和音

昭和五十七年　河北町東福田にて発見、発掘調査された大量の板碑群は、中世の北上川文化圏のありかたを解き明かす重要な手がかりをもたらしました。

この後、北上川流域の当地区の処々から発見されている板碑と共に、一枚一枚に刻まれた文字から当時の地域の様子が解明され始めています。

伝統と文化をみなおし『心豊かなふるさとづくり』を目指そうとする郷土の歴史に関心をもつ人々の強い要望にこたえ、このたび復刻版を発行するに至りました。

この書が、今後更に広く活用されることを期待しております。

昭和六十三年　八月

序

桃生郡河北地区教育委員会
教育長　千葉和音

「古きをたずねて新しきを知る」という言葉があります。先人の歩んだ足跡、先人の精魂に触れ、息吹きに接することにより、新しい精神文化を生み出すことはいつの時代でも大切なことであります。そこに地域の、また国家社会の進展がみられるわけです。

このたび河北町東福田に大量の板碑群が発見されたことは、北上川流域に位置する当地区の古代文化の性格を解き明かす上で極めて貴重な文化遺産が得られたものと喜びにたえません。幸いにも河北地区文化財保護委員長紫桃正隆氏並びに委員の諸氏に調査をお引き受けいただき、その献身的な御努力により予定通り終了することができました。広く御活用いただければ望外の幸せに存じます。この調査をまとめるにあたり御援助くださった関係機関の方々をはじめ、現場作業に御協力くださった地主の山口栄記氏の御労苦に対し心から感謝を申し上げる次第です。

昭和五十七年七月

一、調査主体　宮城県桃生郡河北地区教育委員会、同文化財保護委員会

二、調査担当者　調査責任者　紫桃正隆（同文化財保護委員長　石巻高校教頭）

調査員　狩野善夫（同文化財保護委員）

調査協力員　高橋精一（石巻郷土研究会副会長）

〃　鈴木郁夫（河北地区教委社教主事）

〃　佐藤勝市（同教委社教主事）

〃　安原星夫（同教委社教指導員）

〃　鶴田重善（鳴瀬町）

三、期間　昭和五十七年三月十日～五月十日

四、所在地　宮城県桃生郡河北町東福田字馬場二八

山口栄記氏屋敷裏（東）山際

五、地主　右同人

六、調査の経緯と概要

昭和五十七年二月末、地主・山口氏宅では宅地造成のため裏の段丘（畑）をブルドーザーで削平した所、山際部より大量の石碑が出土したということで、地区教委に調査の依頼要請があった。地区教委では直ちに県教委文化財保護課に連絡し、その指示により同地区文化財保護委員会を中心にして調査活動が始められた。

現地は上品山系の北部山麓に位置する東福田部落のうちでも山間の最奥に当たる所で、屋敷地と裏手（東側）の山裾の間、約三十米の所が造成され、その山際の所より集団となった板碑が掘り出された。当地方の上品山（じょうぼんさん）は古来より仏教の聖地として知られ、板碑の分布は南の石巻市稲井盆地にも、北の河北町二俣地区にも広く見られる。中でも北境・倉迫部落には題目碑を主体とする板碑群が見られるなど、その造立・分布は決して珍しいことではない。しかし、現地からは二基ほどその頭部の露出が見られたとする証言があったものの、かかる大量の板碑が埋蔵されたことは記録にもなく、部落の古老の伝えにもなかった。

現地は谷の流出口に当たる関係でちょっとした扇状地形となる。おそらくは古い時代（江戸時代以前か？）に谷の土砂が流出し、板碑群は埋没したと考えられるが、それも長期にわたる堆積ではなく、突発的土砂崩れによる埋没と推定される。何故なれば第一に発掘時における碑群の状態は倒伏もなく整然と並んでいたというし、第二に願文・銘文などの文字の金箔が完全な色彩で保存され、発掘後の数日の雨で箔が流れ壮麗さを失ってしまったなどは、突発的変事を裏づける例証となろう。

尚、現地には近世碑が一基も発見できないことは、或る時期を境に地勢が一変し、仏教的・民間行事的聖地としての機能を失ったと見るべきであろう。逆説的にはその埋没の年代が近世以前と推定される所以である。

「板碑とは」

鎌倉・室町時代に死者の追善供養などのために建てた平たい石の卒塔婆(そとば)。上部に仏の種子（しゅじ）または仏像などを彫り、その下に建設趣旨・氏名などを刻む。関東に多い。

――「広辞林」――

東福田の現地より発掘された板碑数は六十六基に及んだ。但し、機械動力に頼ったため碑の破却、破損が著しく、三割以上が断碑となってしまったのが惜しまれる。

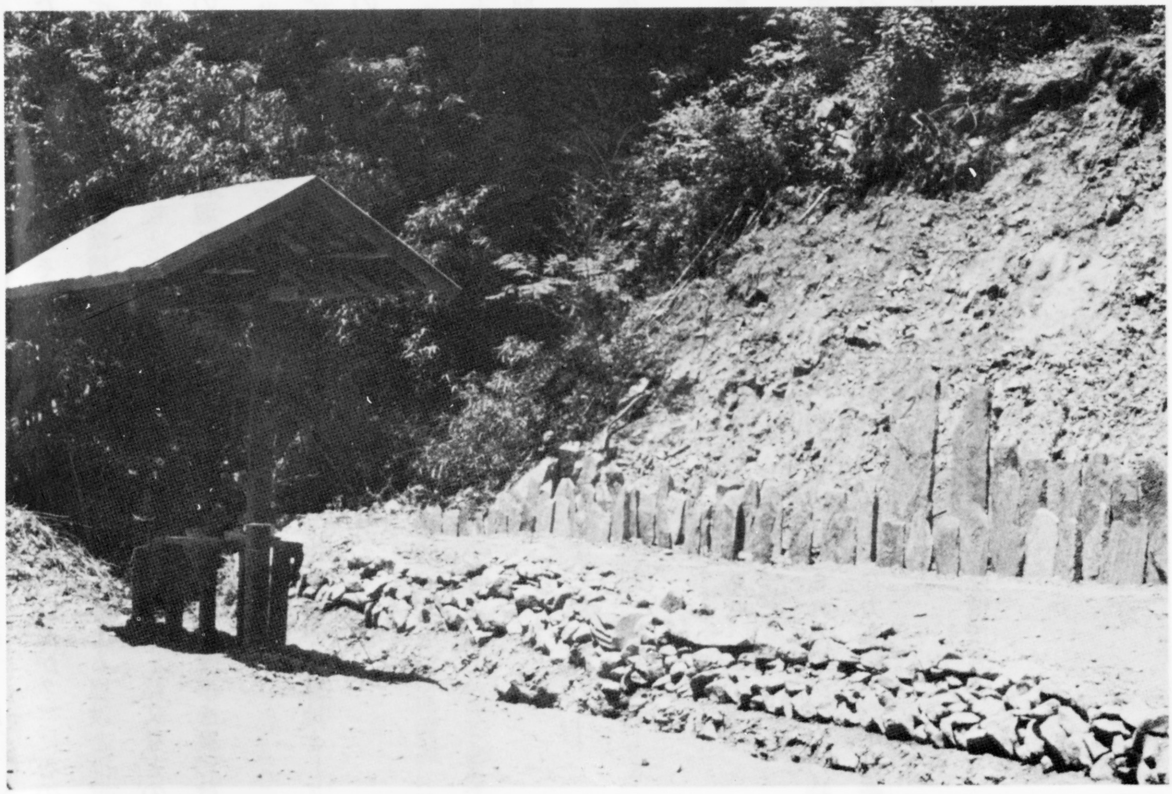
その個々についての調査結果は各論で述べ、更に後章では当地板碑の所見・特長などまとめて見たいと思う。

造立の年代は南北朝中期（一三六〇頃）より室町中期（一四六〇頃）にかけての約百年間に限られるのが一つの特長と言える。「いしぶみ文化」は権者の文化・権者の威と評されるように、この時代の当地には強大な力を誇った中世豪族、在地権力者かあるいはすぐれた宗教指導者が来住したのは確かであろう。

「東福田」という農耕地の地名、そして小字「馬場」という地名からしても武家集団の存在が想像できる。

発掘所在位置▶

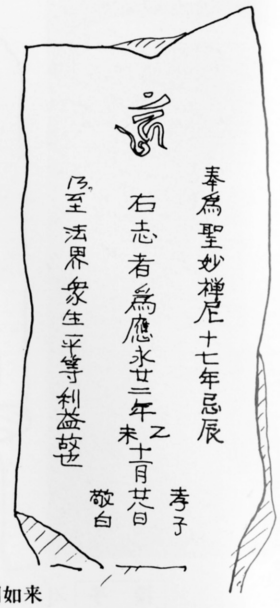
▲発掘当時の現地



(写真提供石巻日日新聞社)

▲修復、再建された碑群

No. 1



種　子 ウーン　阿閦如来

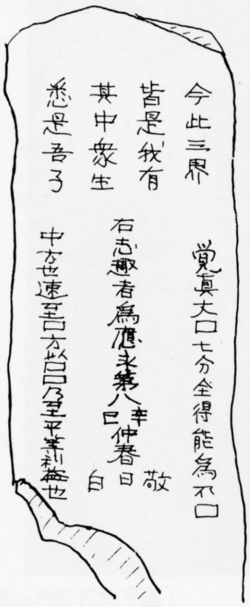
年　号 応永22年　1415　室町初期

偈

その他 奉為(おおんため)　No.14に33回忌が見える

H：122cm　W：40cm　T：6cm

No. 2



種　子

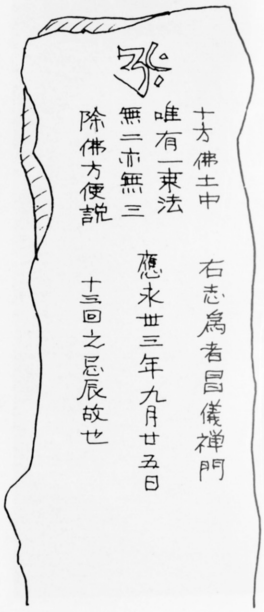
年　号 応永8年　1401　室町初期

偈　法華経譬論品

その他

H：131cm　W：31cm　T：8cm

No. 3



種　子 タラーク　虚空蔵菩薩

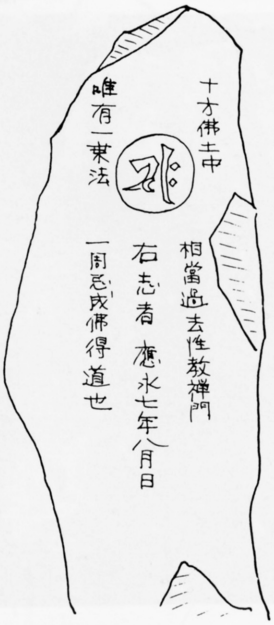
年　号 応永33年　1426　室町初期

偈　法華経方便品

その他 No.13　17回忌碑と同一人である

H：137cm　W：36cm　T：8cm

No. 4



種　子 サク　勢至菩薩

年　号 応永7年　1400　室町初期

偈　法華経方便品

その他

H：107cm　W：31cm　T：5cm

No.6

種　子 サ　観音菩薩

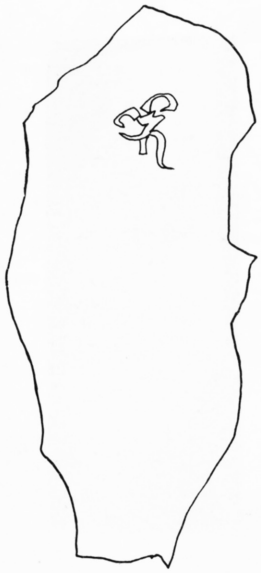
年　号 応仁元年　1467　室町中期

偈

その他

H：81cm　W：27cm　T：4 cm

No.5



種　子 ベイ　薬師如来

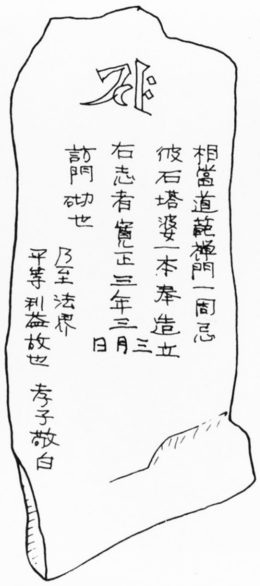
年　号

偈

その他 銘記なし

H：80cm　W：28cm　T：4 cm

No.8



種　子 サク　勢至菩薩

年　号 寛正３年　1462　室町中期

偈

その他

H：71cm　W：24cm　T：7 cm

No.7

種　子 キリーク　阿弥陀如来

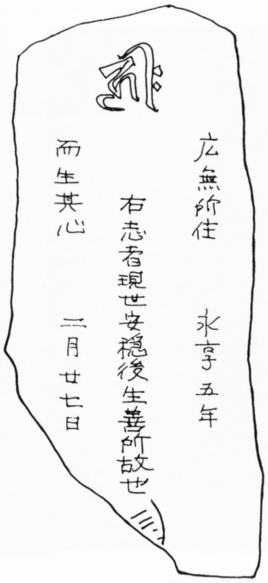
年　号 康応２年　1390　南北朝末期

偈

その他 断碑の上部

H：70cm　W：30cm　T：7 cm

No.10



種　子 キリーク　阿弥陀如来

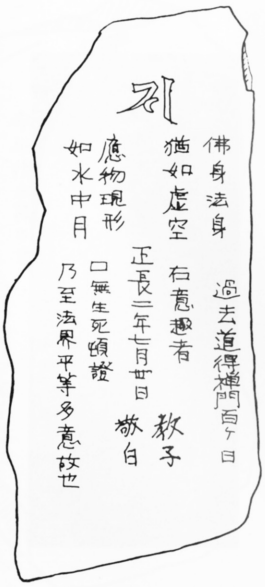
年　号 永享5年　1433　室町初期

偈　金剛般若経　法華経薬草諭品

その他 逆修碑

H：90cm　W：29cm　T：6cm

No.9



種　子 サ　観音菩薩

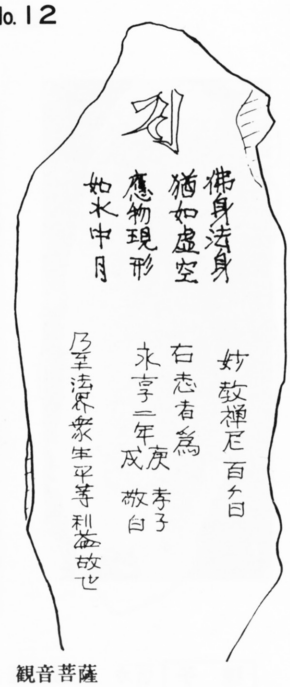
年　号 正長2年　1429(永享元年)室町初期

偈

その他 法名は金箔

H：78cm　W：28cm　T：7cm

No.12



種　子 サ　観音菩薩

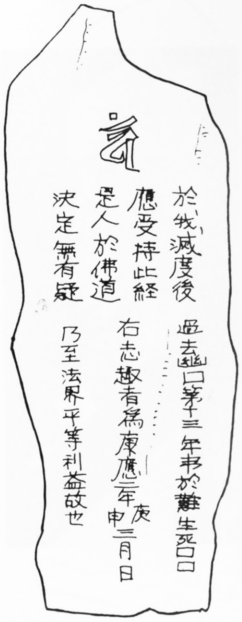
年　号 永享2年　1430　室町初期

偈

その他 金箔による厳飾

H：84cm　W：29cm　T：6cm

No.11



種　子 バン　大日如来

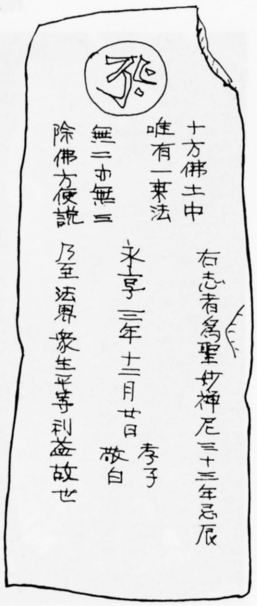
年　号 康応2年　1389(明徳元年)　南北朝末期

偈　法華経如来神力品

その他

H：88cm　W：27cm　T：5cm

No.14



種　子 タラーク　虚空蔵菩薩

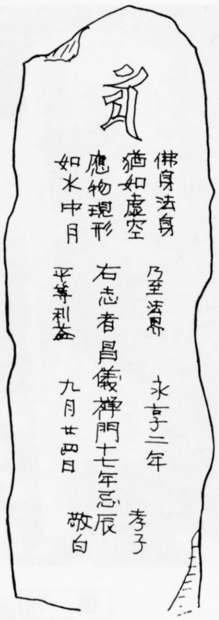
年　号 永享3年　1431　室町初期

偈　法華経方便品

その他 供養者の部金箔厳飾　No.1 17回忌碑と同一人

H：104cm　W：36cm　T：3cm

No.13



種　子 マン　文殊菩薩

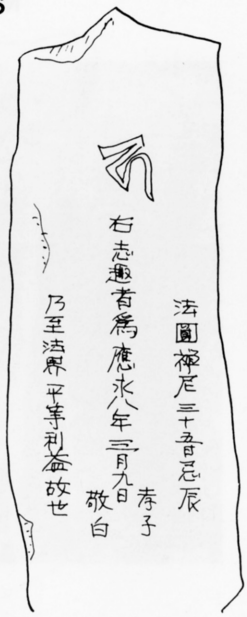
年　号 永享2年　1430　室町初期

偈

その他 金箔による厳飾壮麗　No.3 13回忌碑と同一人

H：103cm　W：30cm　T：11cm

No.16



種　子 カ　地蔵菩薩

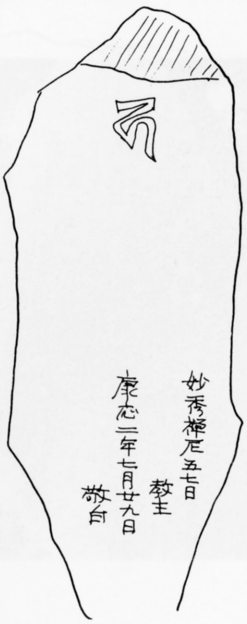
年　号 応永8年　1401　室町初期

偈

その他

H：118cm　W：28cm　T：6.5cm

No.15



種　子 カ　地蔵菩薩

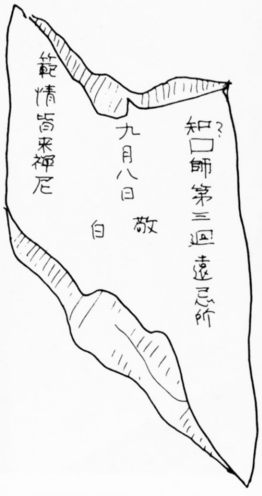
年　号 康応2年　1390(明徳元年)　南北朝末期

偈

その他 金箔で文字厳飾　碑材は花岡岩

H：95cm　W：29cm　T：10cm

No.18



種　子

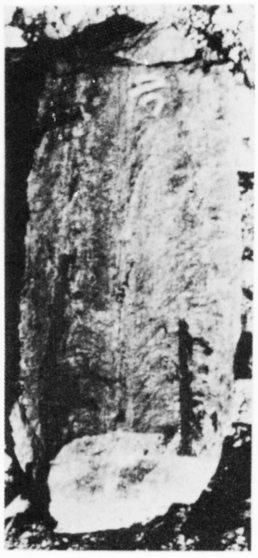
年　号

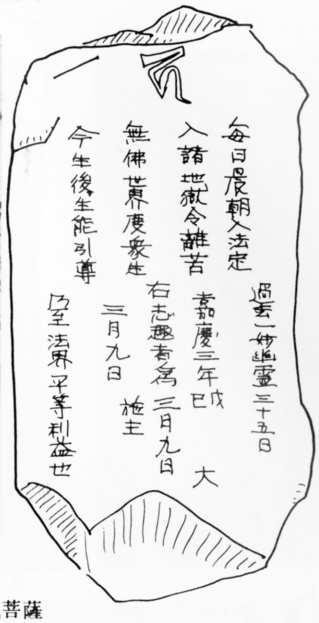
偈

その他 断碑の下部

H：60cm　W：40cm　T：4.5cm

No.17





種　子 ﾃｶ　地蔵菩薩

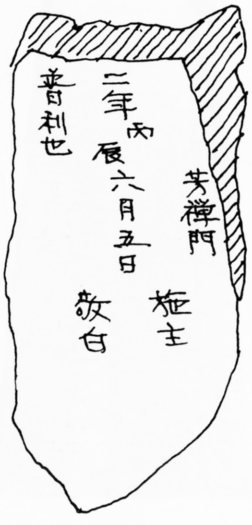
年　号 嘉慶３年　1389(康応元年)　南北朝末期

偈 仏説延命地蔵菩薩経

その他 嘉慶３年己のあやまりか？

H：90cm　W：33cm　T：7 cm

No.20



種　子

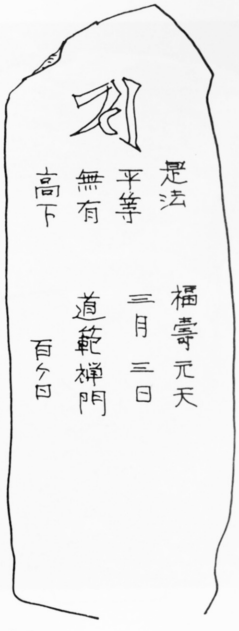
年　号 丙午は応永33年か？

偈

その他 断碑の下部

H：62cm　W：28cm　T：3 cm

No.19



種　子 ｷｻ　観音菩薩

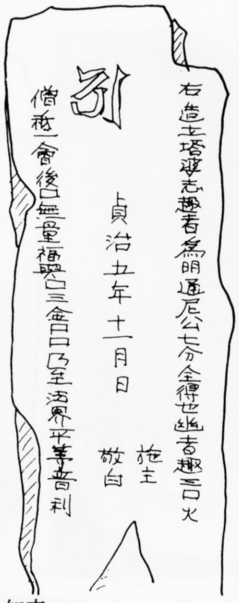
年　号 福壽元年

偈 金剛般若経

その他 福壽は私年号か？

H：76cm　W：19cm　T：6 cm

No.22



種　子 ア　胎蔵界大日如来

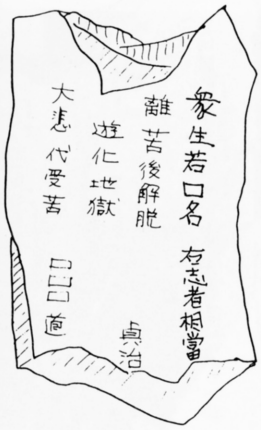
年　号 貞治５年　1366　南北朝中期

偈

その他 明通尼公の逆修碑　尼公は高貴な身分の尊号

H：154cm　W：36cm　T：５cm

No.21



種　子

年　号 貞治　南北朝中期

偈

その他 断碑の上部

H：70cm　W：42cm　T：５cm

No.24

種　子 バン　大日如来

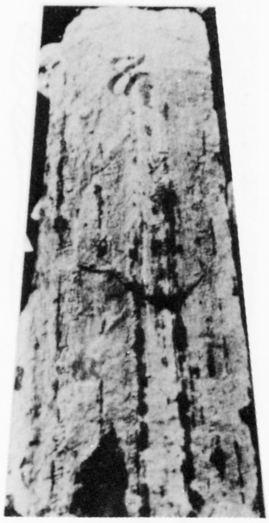
年　号 延文６年　1361(康安元年)　南北朝中期

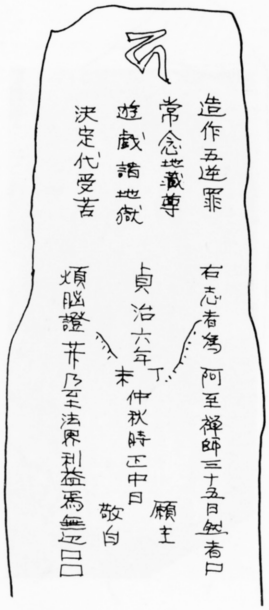
偈

その他 断碑の上部

H：60cm　W：37cm　T：３cm

No.23





種　子 カ　地蔵菩薩

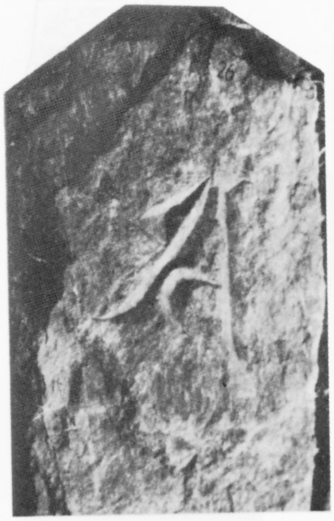
年　号 貞治６年　1367　南北朝中期

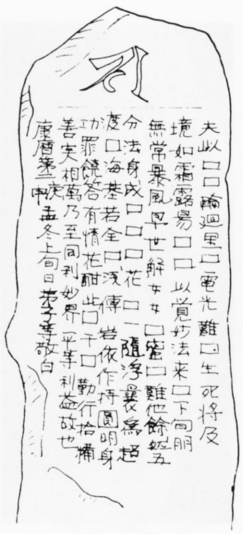
偈

その他 時正(彼岸中日)　菩(菩提)

H：137cm　W：37cm　T：３cm

No.26

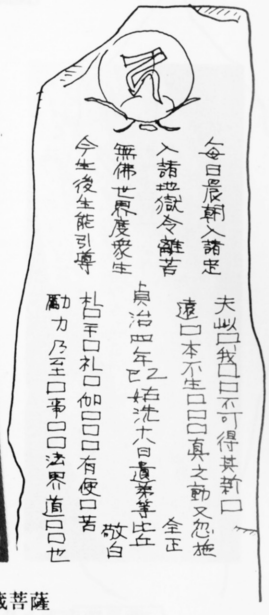




種　子	サ　観音菩薩
年　号	康暦２年　1380　南北朝末期
偈	
その他	

H：240cm　W：70cm　T：7 cm

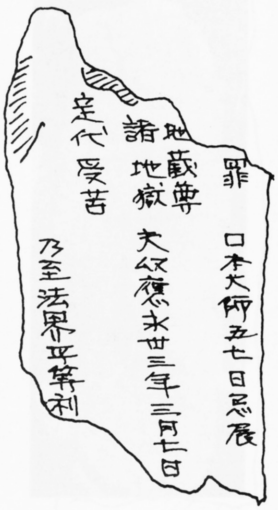
No.25



種　子	カ　地蔵菩薩
年　号	貞治４年　1365　南北朝中期
偈	仏説延命地蔵菩薩経
その他	種子の下に蓮座　姑洗（３月）

H：206cm　W：55cm　T：6 cm

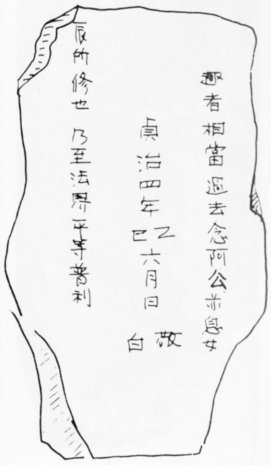
No.28



種　子	
年　号	応永33年　1426　室町初期
偈	
その他	断碑の中部

H：59cm　W：30cm　T：4 cm

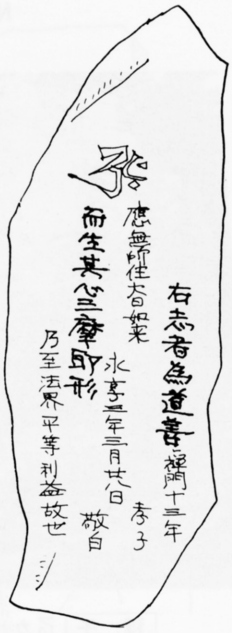
No.27



種　子	
年　号	貞治４年　1365　南北朝中期
偈	
その他	断碑の下部

H：62cm　W：35cm　T：4 cm

No.30



種　子 タラーク　虚空蔵菩薩

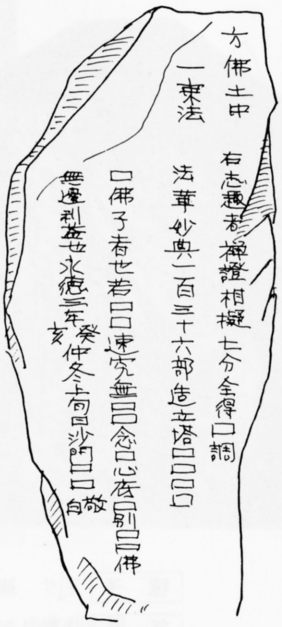
年　号 永享3年　1431　室町初期

偈　金剛般若経(上部)

その他

H：96cm　W：30cm　T：8cm

No.29



種　子

年　号 永徳3年　1383　南北朝末期

偈　法華経方便品

その他 断碑の下部　逆修碑

H：135cm　W：42cm　T：6cm

No.32

種　子

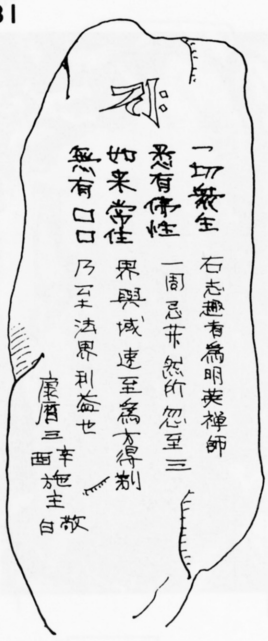
年　号

偈

その他 断碑の下部　No.36と一対になる

H：29cm　W：33cm　T：8cm

No.31



種　子 サク　勢至菩薩

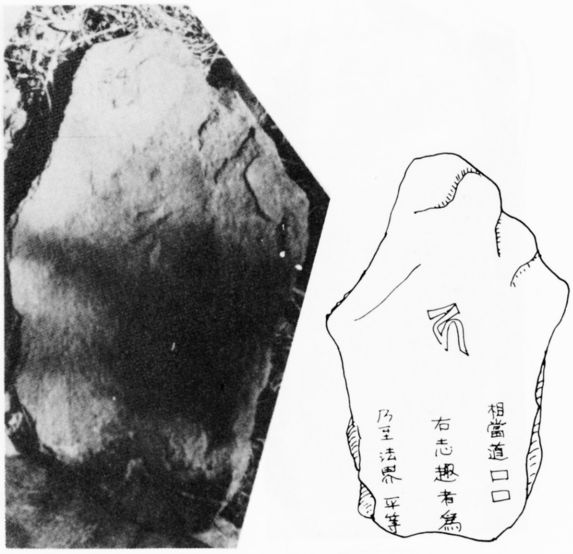
年　号 康暦3年　1381(永徳元年)　南北朝末期

偈

その他 菩(菩提)

H：147cm　W：39cm　T：7cm

No.34



種　子 カ　地蔵菩薩

年　号

偈

その他 断碑の上部

H：77cm　W：40cm　T：5 cm

No.33

種　子 タラーク　虚空蔵菩薩

年　号 貞治6年　1367　南北朝中期

偈

その他 菩(菩提)

H：105cm　W：29cm　T：3 cm

No.36

種　子 タラーク　虚空蔵菩薩

年　号 応永

偈 法華経譬諭品

その他 断碑の上部　No.32と一対となる　33回忌供養碑　霊(霊)

H：93cm　W：31cm　T：9 cm

No.35

種　子 カ　地蔵菩薩

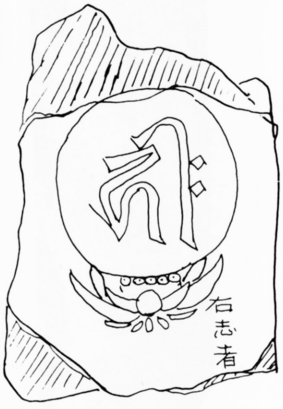
年　号 応永18年　1411　室町初期

偈 観無量壽経

その他

H：130cm　W：31cm　T：6 cm

No.38



種　子 キリーク　阿弥陀如来

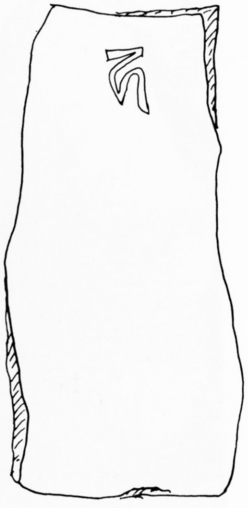
年　号

偈

その他 断碑の上部　蓮華紋様壮麗

H：51cm　W：37cm　T：3 cm

No.37



種　子 カ　地蔵菩薩

年　号

偈

その他 銘記なし

H：94cm　W：29cm　T：4 cm

No.40

種　子 カ　地蔵菩薩

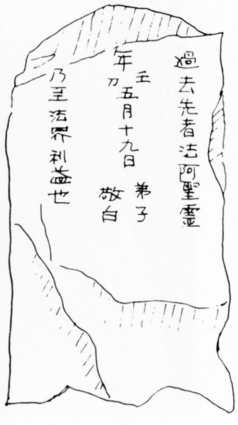
年　号

偈

その他 断碑の上部

H：44cm　W：24cm　T：2 cm

No.39



種　子

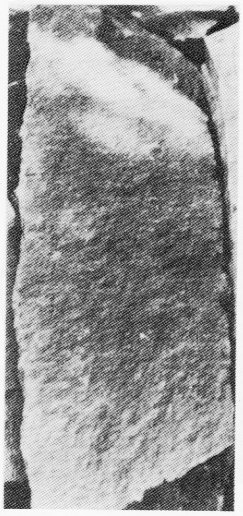
年　号 壬寅年は応永20年か？

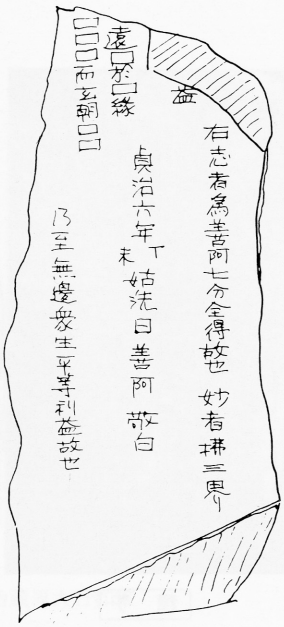
偈

その他 断碑の下部

H：67cm　W：37cm　T：4 cm

No.42





種　子

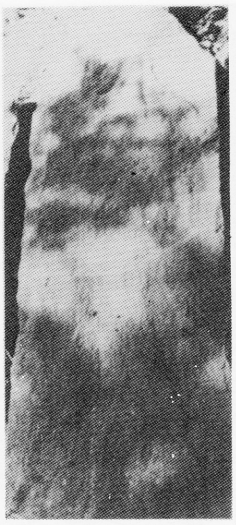
年　号　貞治６年　1367　南北朝中期

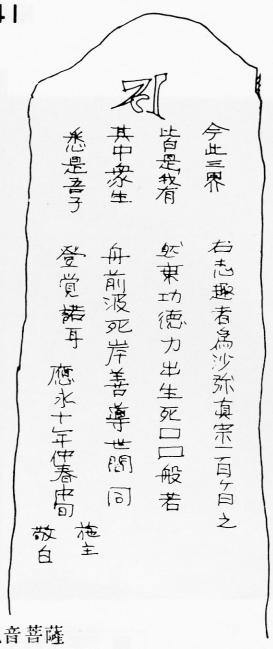
偈

その他　断碑の下部　善阿造立の逆修碑　姑洗（３月）

H：140cm　W：37cm　T：６cm

No.41





種　子　サ　観音菩薩

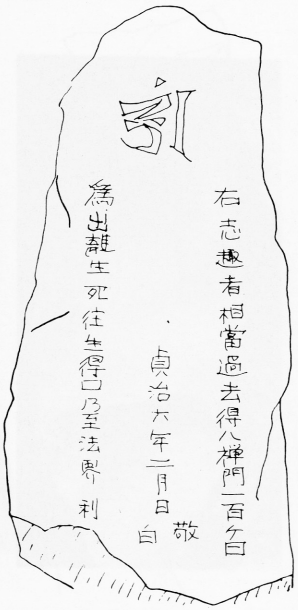
年　号　応永10年　1403　室町初期

偈　法華経譬諭品

その他　仲春（２月）

H：140cm　W：37cm　T：７cm

No.44



種　子　アン　普賢菩薩

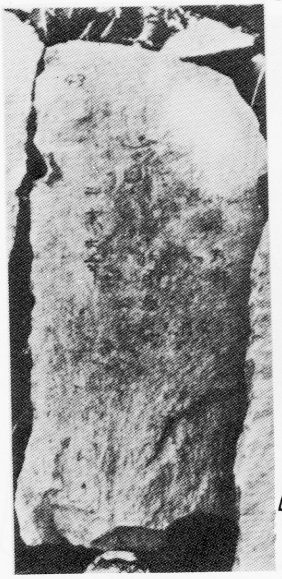
年　号　貞治６年　1367　南北朝中期

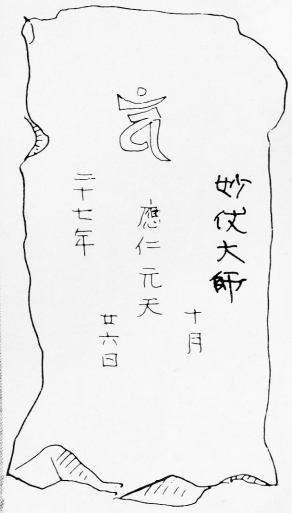
偈

その他　断碑の土部　No.65と一対になる

H：97cm　W：36cm　T：７cm

No.43





種　子　バン　大日如来

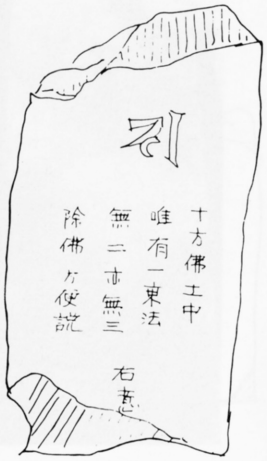
年　号　応仁元年　1467　室町中期

偈

その他　金箔で文字を厳飾

H：73cm　W：30cm　T：５cm

No.46



種　子 サ　観音菩薩

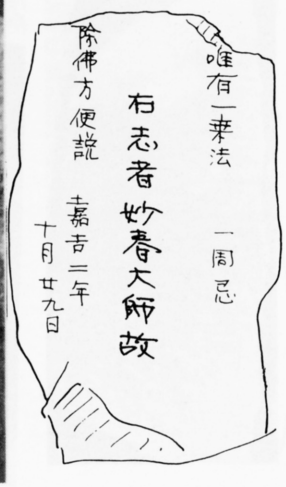
年　号

偈　法華経方便品

その他 断碑の上部

H：50cm　W：29cm　T：5 cm

No.45



種　子

年　号 嘉吉２年　1388　南北朝末期

偈　法華経方便品

その他 断碑の下部

H：42cm　W：24cm　T：3 cm

No.48

種　子 カ　地蔵菩薩

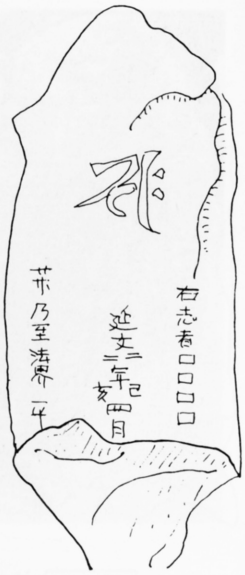
年　号 永徳　南北朝末期

偈

その他 断碑の上部

H：42cm　W：25cm　T：3 cm

No.47



種　子 サク　勢至菩薩

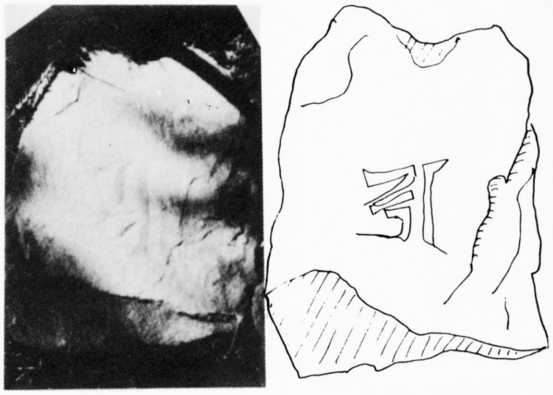
年　号 延文４年　1359　南北朝中期

偈

その他 二二年（４年）菩（菩提）

H：85cm　W：30cm　T：4 cm

No.50



種　子　ア　胎蔵界大日如来

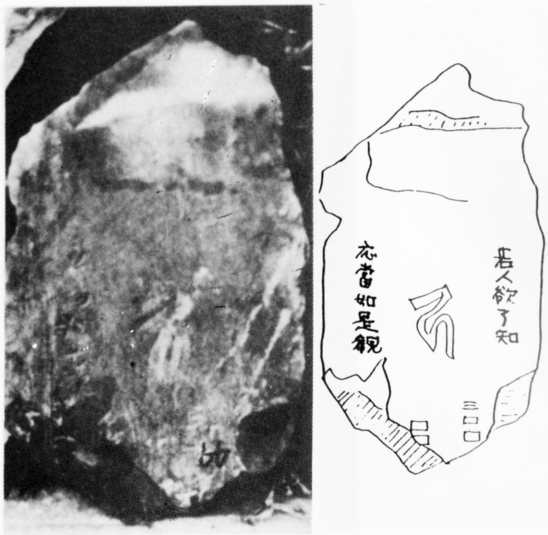
年　号

偈

その他　断碑の上部

H：42cm　W：33cm　T：3 cm

No.49



種　子　カ　地蔵菩薩

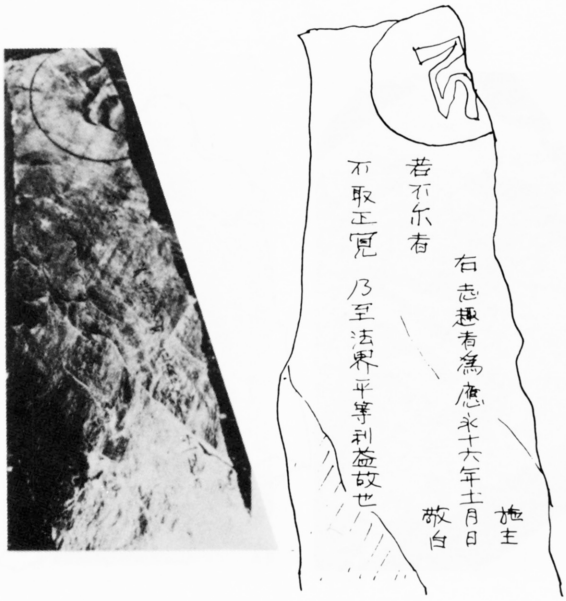
年　号

偈　華厳経

その他　断碑の上部

H：44cm　W：23cm　T：3 cm

No.52



種　子　カ　地蔵菩薩

年　号　応永16年　1409　室町初期

偈　観無量壽経

その他　断碑

H：118cm　W：34cm　T：7 cm

No.51

種　子　カ　地蔵菩薩

年　号

偈　法華経

その他　金箔文字にて厳飾

H：80cm　W：18cm　T：8 cm

No.54

種　子

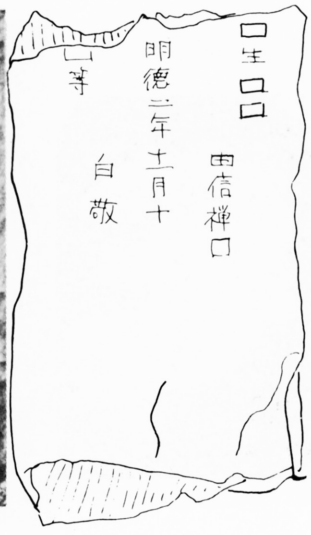
年　号

偈　涅槃経

その他　断碑の中部

H：46cm　W：28cm　T：3 cm

No.53



種　子

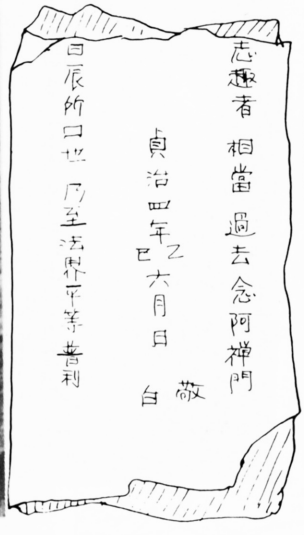
年　号　明徳２年　1391　南北朝末期

偈

その他　断碑の下部

H：41cm　W：28cm　T：3 cm

No.56



種　子

年　号　貞治４年　1365　南北朝中期

偈

その他　断碑の下部

H：50cm　W：25cm　T：5 cm

No.55

種　子　ｷｶ　地蔵菩薩

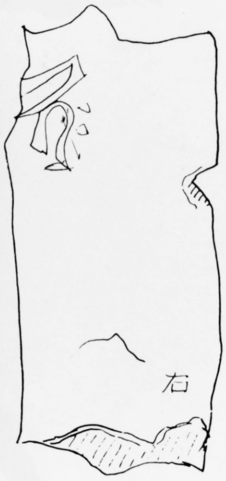
年　号

偈

その他　断碑の上部

H：40cm　W：26cm　T：3 cm

No.58



種　子 バク　釈迦如来

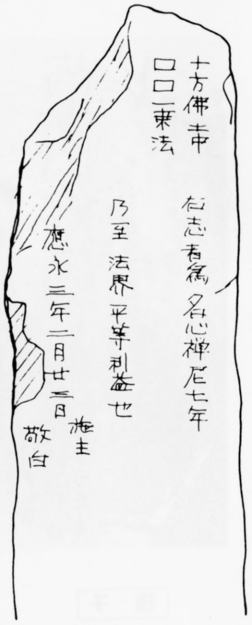
年　号

偈

その他 断碑上右部

H：45cm　W：20cm　T：3cm

No.57



種　子

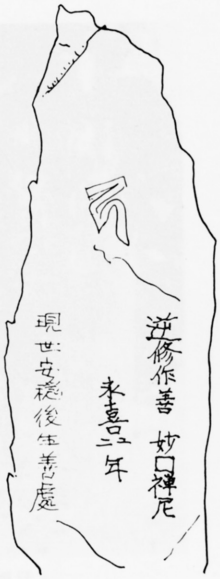
年　号 応永3年　1396　室町初期

偈 法華経方便品

その他

H：120cm　W：28cm　T：9cm

No.60



種　子 カ　地蔵菩薩

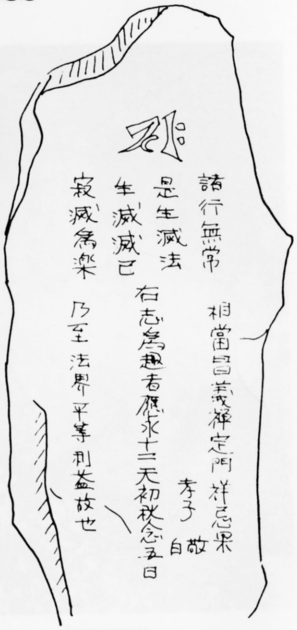
年　号 永喜4年

偈

その他 妙□禪尼の逆修碑二二年（4年）

H：70cm　W：21cm　T：4cm

No.59



種　子 サク　勢至菩薩

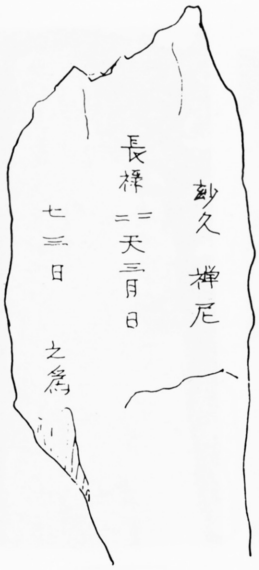
年　号 応永12年　1405　室町初期

偈 涅槃経

その他 昌義禪定門の一周忌の碑 念五日（25日）
文字は金箔で厳飾

H：96cm　W：40cm　T：3cm

No.62



種　子

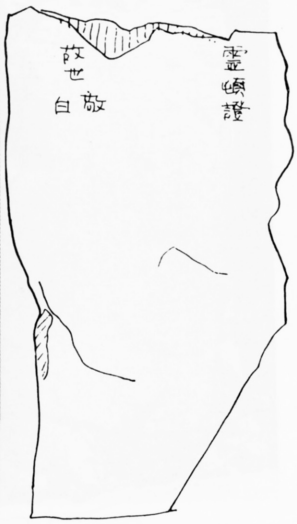
年　号 長禄4年　1460(寛正元年)　室町中期

偈

その他 二二天(4年)

H：85cm　W：27cm　T：7cm

No.61



種　子

年　号

偈

その他 断碑の下部

H：53cm　W：26cm　T：3cm

No.64

種　子

年　号

偈

その他 断碑の下部

H：54cm　W：27cm　T：8cm

No.63

種　子 ङバン　大日如来

年　号

偈

その他 磨滅甚だしく解読不能

H：77cm　W：21cm　T：7cm

No.66

種　子

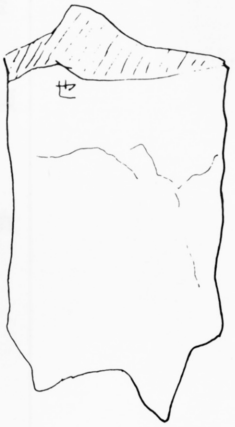
年　号

偈

その他　断碑片

H：44cm　W：17cm　T：2 cm

No.65



種　子

年　号

偈

その他　断碑の下部　No.44と一対となる

H：72cm　W：34cm　T：5 cm

No.68

種　子　ソ　サク　勢至菩薩

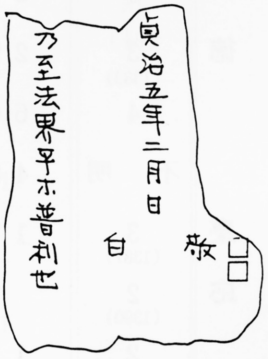
年　号

偈　法華経方便品

その他　断碑

H：43cm　W：28cm　T：6 cm

No.67



種　子

年　号　貞治5年　1366　南北朝中期

偈

その他　断碑

H：55cm　W：56cm　T：4 cm

表1

有紀年板碑の通番（No.）一覧表

年号	年	通番No.	年号	年	通番No.
延文	4 (1359)	47	応永	8	2
	6	24		8	16
貞治	4 (1365)	25		10	41
	4	27		12	59
	4	56		16	52
	5	22		18	35
	5	67			
	6	23		22	1
	6	33		33	3
	6	42		33	28
	6	44		不明	36
	不明	21	正長	2 (1428)	9
康暦	2 (1380)	26	永享	2 (1430)	12
	3	31		2	13
永徳	3 (1383)	29		3	14
	4	60		3	30
	不明	48		5	10
嘉慶	3 (1387)	17	嘉吉	2 (1442)	45
康応	2 (1390)	7	長禄	4 (1460)	62
	2	11	寛正	3 (1462)	8
	2	15	応仁	1 (1467)	6
明徳	2 (1391)	53		1	43
応永	3 (1396)	57			
	7	4	計		45基

表2

有紀年板碑年代別分布数		
年号	数	
延文 (1356)	2	南北朝(中)
貞治	10	
康暦	2	
永徳	3	
嘉慶	1	
康応	3	(末)
明徳 (1390)	1	
応永	12	室町(初)
正長	1	
永享	5	
嘉吉	1	
長禄	1	
寛正	1	
応仁 (1467)	2	
計	45	

まとめ

一、総数六十八基、出土した碑すべてについて精査した。但し、碑として完全なる形を保つものがほぼ半数で、三割程度が断碑となる。これは発掘時の機械作業による影響である。

個々の断碑に対する接合複元作業は数基について行っただけで完全には実施していない。

二、石材は数基に花岡岩が使われたが、その殆どが稲井石（砂質粘板岩）が使われ、高さも二四〇糎（No.26）が最高で、他は殆ど一米前後の自然石の形のものである。

三、紀年銘の明らかなものは四十五基である。有紀年板碑の通番（No.）を年代順にまとめたのが表1の「有紀年板碑の年号順通番（No.）一覧表」であるし、その造立分布をまとめたのが表2の「有紀年板碑年代別分布表」である。この表で判るように、その年代は延文（南北朝中期）を上限に、応仁（室町中期）を下限におく約百年間（一三六〇頃より一四六〇頃。今から約六〇〇年～五〇〇年前）にわたる宗教的所産である。

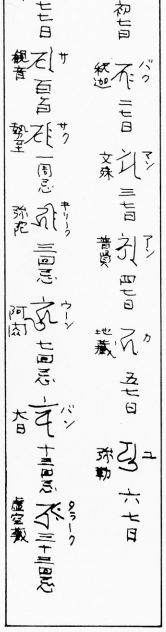
前にも述べたが、上品山系の石巻市稲井、河北町二俣、福地には板碑が密度濃く分布するが、その造立年代は鎌倉末期から南北朝期にかけてのものが主流を占める。当地の碑はそれより平均約百年ちかく年代が下ることになる。

四、銘文の彫刻は書体も彫りも明らかにプロの手になるものが多い。記銘には金箔を施し、壮麗に厳飾したものが十基にも及ぶ。但し、紋様としては蓮座は数基に認められるだけで、天蓋・瓔珞の彫られたのは一基もない。

五、当地の板碑には願文・偈の文字数が格別に多く、念入りに造立目的を記している。

六、種子には各種見られるが、中でも（カ）と（サ）が特に多い。

年忌を表わす種子は十三仏信仰の定法に従い、室町以降は次表の配列となっている。



当地の碑ではほぼその定法を踏み、年忌と種子が合致している。

七、その殆どが死者供養碑（順修）である。その中に、応永二十二年の聖妙禅尼十七回忌（No.1）と永享三年の同禅尼三十三回忌（No.14）の二つの碑、それから応永三十三年昌儀禅門十三回忌（No.3）と永享二年同禅門十七回忌（No.13）の二つの碑がそれぞれ発見できる。年忌と当たり年号が全く符合する。おそらく昌儀禅門と聖妙禅尼は夫婦であろうか。ともあれ、施主（縁者）による供養が継続した例でその過程が知り得て興味深い。

八、逆修碑と考えられる碑（七分全得の願文のものも含む）として七基発見された。中でも「善阿」が自身のために建てた貞治六年の碑（No.42）は珍重である。

※注　逆修……生前自己のために仏事をおさめ冥福を祈ること。

九、偈としては、法華経方便品・同譬諭品・同如来神力品など法華経より採った句が格別に多い。特に南北朝時代のものには法華経の偈句を主に、願文に禅師・遺弟・比丘・弟子・などの文字が見え、題目・名号などの碑は一基も発見できない側面から推して、この地は天台宗の基地となった所と考えられる。おそらく　寺院関係の建物もあったのであろう。しかし、室町期に入ると偈文に観無量寿経・涅槃経・金剛般若経などが見られ、特定の宗派の祭祀地とは断定できなくなる。むしろ、在地豪族中心のフリースタイルの宗勢の場の様相が見られる。

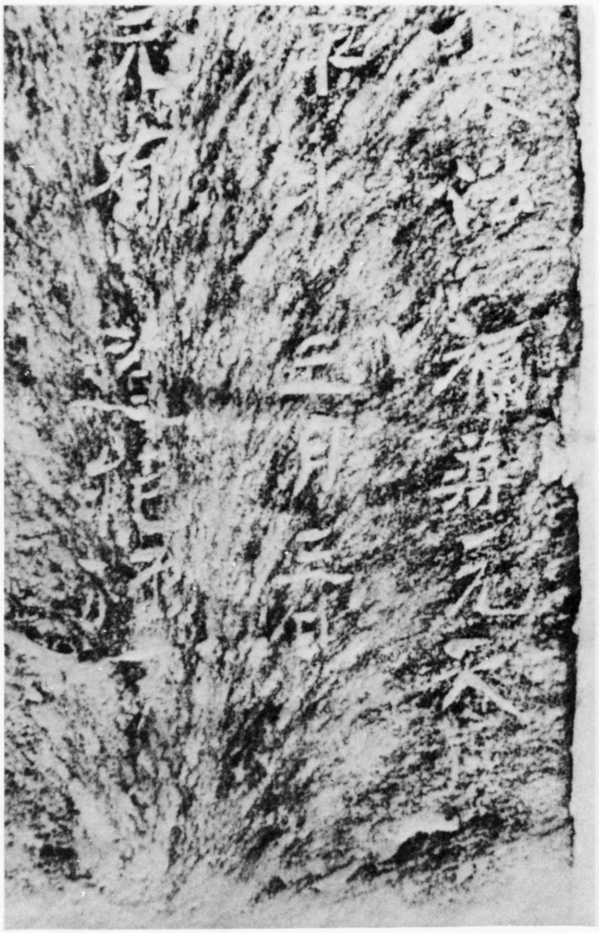
※注　偈（げ）……仏の功徳、法の道理をたたえ述べる詩句。

十、私年号と思われるものとしてNo.19「福壽元天」が挙げられる。「福壽」は初見の年号である。今後の課題として注目したい。

※注　私年号……朝廷で定めた公の年号でなく民間で私に立てた年号。

付　記

本書再版に当り、勝倉元吉郎氏（石巻石仏研究会々長）の御協力をいただいた。



No.19の碑　拓本
福壽元天（年）の文字が見える。

報告者　紫桃正隆
（宮城県河北地区文化財保護委員長）

板碑群調査報告

昭和５７年　８月　25日　印刷
昭和５７年　８月　31日　発行

発　行　桃生郡河北地区教育委員会
（宮城県桃生郡河北町相野谷字旧会所前29の１）

編集者　紫　桃　正　隆
（桃生郡河北地区文化財保護委員長）

印　刷　株式会社　松　弘　堂
石巻市門脇字本草園２－16
☎ 0225 (96) 5 5 5 5（代表）

再版発行　昭和63年９月

印　刷　（有）明正社印刷所
桃生郡河北町相野谷字旧屋敷183
☎ 0225 - 62 - 3011